



国際交流員ウィルペルトのコラム

名前を軽んじてはいけない Ein Name ist nichts Geringes (アインナーメ イスト ニヒツ ゲリンゲス)



皆さん、1月号のコラムからの続きです。ドイツ人は、お互いをどのように呼び合うのでしょうか。

ドイツ語を勉強した経験がある方は知っていると思いますが、ドイツ語にも、人に話しかけるときに、日本の敬語のような丁寧な言い方と、友達口調のような言い方があります。

ドイツ語で、丁寧な言い方を“Siezen (ジーツェン) “、友達口調を“Duzen (ドゥーツェン) “といいます。

誰かに名前を聞きたいときは、丁寧な“Sie (ジィ、あなた) “か、友達口調の“Du (ドゥ、あなた) “のどちらを使うか選ばないといけません。知らない人には、当然、丁寧な方で話しかけます。

そして、ドイツ人にとって、その使い分けは名前の呼び方と関係があります。

丁寧な“Siezen“の場合は、相手を名字で呼びます。友達口調の“Duzen“の場合は、名字ではなく名前と呼ぶ習慣があります。

付き合いが長くなった相手、あるいは距離を縮めたい相手と、丁寧な言い方・名字呼びから、友達口調・名前呼びに切り替えるのに、17世紀から伝わる伝統的な儀式があります。“Brüderschaft trinken (ブルダァシャフト トゥリンクン、友情の証) “という儀式です。

仲良くなりたい相手と、お互いに片手で飲み物を持って、その腕同士を交差させて絡ませ、そのまま自分のグラスから飲み物を一口飲みます。そして、お互いに下の名前で自己紹介して、名前呼び合うようになります。私も、15・16歳のときに友達と一緒にやったことがあります。



写真提供: freepik.com

ドイツでは、幼い子どもに対しては子ども向けの言葉づかいをしますが、基本的には対等な話し方をします。私の場合は、12・13歳になってちょっと大人っぽくなってきたら、店員さんも敬語で話してくるようになりました。学校でも、生徒が18歳になったら、先生が生徒に対して敬語を使い始めることがよくあります。法律上、大人になったからです。

ドイツ人にとって、初対面で相手が選んだ呼び方にも意味があります。

相手から丁寧な言い方・名字で呼ばれている場合、私たちの間に距離を感じているとか、距離を取りたがっている、あるいは尊敬していると、私は判断します。

相手がお互いを友達口調・名前呼び合っている場合は、距離感を感じないで仲良くしたい気持ちの表れだとわかります。といっても、相手によります。例えば、年上の人(特に男性)が最初から名前呼んできたら、慣れ慣れしくて信用できない感じがするので、私は距離を取りたくなくなってしまいます。

仕事関係で出会った場合には、会社で呼び方についての決まりがある以外、初対面で「名字ではなく名前呼び合おう」という人は、私の経験上、1人もいませんでした。

仕事の関係が2年以上続いて、“Siezen“から“Duzen“へと変化することはありました。それは、相手が「付き合いが長いから、そろそろそれを呼び方で示そう」という意味で言ってくれたと分かりました。

ちなみに、ドイツ語の丁寧な“Sie”と友達口調の“Du”のような使い分けをする言葉は、ヨーロッパの言語のほとんどにあります。フランス語、オランダ語、スペイン語、ポーランド語にもあります。英語は、ちょっと違います。

ここまで読んでいただけたら、私がなぜ名前の呼ばれ方で悩んだのか、皆さんから名字のウィルペルトで呼ばれたいのか、分かってくさるでしょうか？ 少しでも伝われば嬉しいです。

多文化共生講演会を開催します

日本で暮らす外国人がどんなことを感じているのか、「生活や習慣」、「日本語」など、身近なテーマを取り上げた講演会を開催します。

お互いの違いを認め合いながら、同じ地域住民として共に生きていくためにできることについて、思いを巡らせてみませんか？

※多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省:多文化共生の推進に関する研究会報告書より)をいいます。

■日時 2月27日(日) 午前10時30分～

■場所 市役所 3階会議室

■定員 50名(先着順)

■講師 行本(ゆくもと)リジア氏
(鹿沼市国際交流協会外国人相談員)

■参加費 無料

■申込方法 電話、FAX、メール (FAXかメールの際は、「多文化共生講演会申し込み」であることと「参加者氏名」と「電話番号」を明記してください)

■申込期限 2月18日(金)

■申し込み・問い合わせ先

市民協働推進課 ☎(32)8887 ☎(32)8606

✉ shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp